

取り組んだ課題

箱根老人ホームは平成12年6月に「拘束検討委員会」を設置し、身体拘束廃止に向けて取り組んできました。7割近い利用者が何らかの拘束を行っている状態でしたが、介護保険導入を契機に、身体拘束ゼロを目指して取り組むことにしました。

具体的な取り組み

(1)拘束委員会の設置

平成12年6月に拘束検討委員会を設置し

- ・誰にどのような拘束を行っているか、
- ・なぜ拘束をしているのか、
- ・どのようにすれば拘束をはずせるかを討議し、廃止できる人から廃止を始めました。

その結果、少しの工夫（サポートチェア - やローソファなど、介護機器の活用等）で平成13年3月までの10ヶ月間で残り9名まで減らしました。

(2)現場スタッフの不安感の除去

現場のスタッフは、拘束を外して怪我があったときの責任等に不安を感じていました。施設長、副所長、課長より、「拘束をしていない状態での事故は個人の責任ではなく、ホーム全体の責任として私達も一緒に責任をとります。しかし拘束をした状態での事故に関しては、拘束をした一職員の責任です。」と話があり、拘束ゼロの取り組みの原動力となりました。

(3)拘束廃止した先駆的施設の見学研修

残り9名というところで大きな壁にぶつかり、先入観をなくし、意識を高めるため、平成13年5月に、横須賀老人ホームへ研修に行きました。同老人ホームで身体拘束は必ずしも利用者の安全を守ることにはつながらないという話があり、私達の心の中にあった安全神話が崩壊しました。

(4)目標設定

横須賀老人ホームの研修後、平成13年9月30日までに、拘束ゼロの実現を目指して取り組むことを拘束検討委員会より決定しました。

(5)まずは拘束委員が...

先入観がある状態で話し合っても、話しが進みにくく、具体性に欠けるため、まずは拘束検討委員の責任のもと試行的に行ない、情報提供しました。

(6)最後に残った利用者の事例

各フロア一人づつY字型拘束帯の利用者が残りましたが、ケアプラン担当者、整形外科、家族との連携により、平成13年7月に拘束ゼロを実現しました。1年1ヶ月の時間を要しました。

(7)例外を作ってしまったこと

例外を作らないことを確認していたのにも関わらず、1Fでは10月、2Fでは7月に、短時間ではありますが、利用者を拘束してしまいました。すぐに緊急カンファレンスを開

き、絶対に例外は作らないことを確認しました。

(8)Q&Aの作成

身体拘束に対する意識を高め、職員の悩みを表面化するために、あえて「どのような場面で拘束がしたくなるか」というアンケートを実施し、Q&Aを作成しました。Q&Aを作成することにより、今までのケアの見直し、介護の場面で壁にぶつかったときの参考になればと考えたからです。

活動の成果と評価

今振り返ると、はじめて身体拘束を見た時は、ものすごく違和感を感じていました。しかし、いつのまにか、「安全神話」を信じるようになっていました。その意味で拘束というのは、利用者の身心を縛るだけでなく、職員の心まで縛ってしまうものだと思います。

また拘束をしている理由や利用者の気持ちを考えて、どのように対応をすれば拘束をゼロにできるかを考える必要があります。拘束をなくすことによって記録に変化が表れたり、利用者の可能性に目を向けた事例もありました。その意味で、拘束ゼロの取り組みは拘束をなくすことだけが目的ではなく、ケアの質を高める第1歩であり、あらためて利用者個々のアセスメントの重要性を実感しています。

【主な取り組み】

活動報告

日付	場所	
H14. 3	箱根老人ホーム	身体拘束ゼロのシンポジウム 神奈川県高齢者福祉課主催
H14. 3		身体拘束ゼロQ & A作成
H14. 1 0	パシフィコ 横浜	全国老人福祉施設研究会議 「身体拘束ゼロの取り組みについて」発表
H15. 7	パシフィコ 横浜	神奈川県社会福祉協議会 「身体拘束ゼロの取り組みとその後について」発表
H16. 2	自治総合 研修センター	拘束なき介護事例報告会(神奈川県立湘南老人ホーム主催) 事例報告 「拘束廃止に向う力と目標作り」発表
H16. 3	自治総合 研修センター	拘束なき介護事例報告会(神奈川県立湘南老人ホーム主催) アドバイザー

【箱根老人ホーム拘束廃止の介護キャッチフレーズ】

- は じめから外せないと言いつめるのではなく
- こ うすれば外せるという方法を考えて
- ろ うじん（利用者）の気持ちを理解し
- う みだされる弊害を考えて、例外は作らず
- こ うそくとは身体的拘束だけでなく、対応の拘束もあり
- う ごく機会を作る事により転倒時の怪我を最小限に防ぎ
- そ ファーへの移動が筋力アップにつながり
- く るまいすは、乗せっぱなしではなく移動の手段と考え
- は じめて拘束されている利用者を見た時の気持ちを思い出し
- い つまでもその気持ちを忘れずに
- し よくいんの心も縛ってしまう拘束をなくすために
- の こされた利用者の力や
- か のうせいに目を向けて
- い ままでのケアを見直し
- ご 家族と協力し、ケアの質を高める拘束廃止の実現を目指す